

(34)

氏名(生年月日)	ウエダ 上田みどり
本籍	
学位の種類	博士(医学)
学位授与の番号	乙第1380号
学位授与の日付	平成5年6月18日
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当(博士の学位論文提出者)
学位論文題目	冠動脈疾患を合併する腹部大動脈瘤症例における冠血行再建術の 適応について
論文審査委員	(主査) 教授 細田 瑳一 (副査) 教授 小柳 仁, 野崎 幹弘

## 論文内容の要旨

### 目的

近年、手術の対象となる腹部大動脈瘤症例は増加しており、その治療指針を決定する際に高率に合併する冠動脈疾患が大きな問題となる。冠動脈疾患の合併は腹部大動脈瘤の手術成績のみならず長期予後に対する影響も懸念されるため、先行する冠血行再建術の必要性が議論されるが、その適応基準についてはこれまでに報告はなく一致した見解がない。本研究では、自験例における病像の特徴、治療成績および長期予後を調査し、冠動脈疾患を合併する腹部大動脈瘤症例における冠血行再建術の適応について検討した。

### 方法

過去9年間に当科に入院し冠動脈造影を施行し得た径50mm以上の腹部大動脈瘤症例109例のうち、冠動脈の有意狭窄が確認されたのは54例(50%)であった。これらにつき冠動脈造影所見、心筋梗塞および狭心症の既往の有無、冠危険因子、冠動脈疾患に対する治療の選択、および腹部大動脈瘤手術例、非手術例における心事故発生を調査した。観察期間は腹部大動脈瘤手術例46例で術後平均41±24カ月(3~87カ月)、非手術例8例では診断後平均39±12カ月(27~56カ月)であった。

### 結果

冠動脈に有意狭窄を有する54例の内訳は、左主幹部病変2例(2%)、左前下行枝(LAD)を含む2枝病変11例(10%)、LAD1枝病変14例(13%)、LAD以外の1枝病変12例(11%)、末梢病変15例(14%)であっ

た。2枝病変例では全例に心筋梗塞あるいは狭心症の既往があったが、末梢病変例の7割の症例には心筋梗塞、狭心症いずれの既往もなかった。冠危険因子では、冠動脈疾患合併群は非合併群に比し糖尿病が高頻度であった(20%vs.5%,  $p<0.05$ )。腹部大動脈瘤の手術を施行した46例のうち7例(15%)には大動脈瘤の診断以前に冠血行再建術の既往があり、残り39例のうち原則としてLAD近位部に狭窄を有する12例(27%)には術前の冠血行再建術—冠動脈バイパス術(CABG)8例、経皮的冠動脈形成術4例—を施行し、1例(2%)は同時にCABGを行った。LAD以外の病変を有する26例(56%)はそのまま腹部大動脈瘤の手術を行った。心事故としては術後早期に同時CABG例1例(2%)と遠隔期に冠血行再建術非施行例で3例(6%)に心筋梗塞を発症したのみで、早期、遠隔期ともに心臓死はなかった。また腹部大動脈瘤非手術例8例では観察期間中に心事故の発生はなかった。

### 考察

灌流域の広い左前下行枝近位部の病変を含む症例に対しては腹部大動脈瘤の手術前に冠血行再建術を施行し、灌流域の狭い冠動脈病変例に対しては冠血行再建術を行わずに腹部大動脈瘤の手術を施行した。8%に心筋梗塞の発症をみたが心臓死はなく、欧米の報告に比し良好な早期および長期成績が得られ、造影所見に基づいた積極的な冠血行再建術の実施が奏効したと考えられた。

## 結論

腹部大動脈瘤の手術に際しては冠動脈疾患の合併に対する配慮が必要であり、原則として左前下行枝近位

部に有意狭窄がある場合は冠血行再建術の適応となる。

## 論文審査の要旨

近年大動脈瘤症例が増加しており、poor riskの高齢者にも手術が行われるようになった。その中でも冠動脈疾患は最も危険な合併症であり、冠動脈血行再建術を大動脈瘤の手術に先行して行うことの適否について論争がある。本論文は多数の冠動脈病変合併例について手術成績、術中術後合併症および長期予後を詳細に検討し、左前下行枝近位部病変を有する症例のみについて冠動脈血行再建術または冠動脈形成術を行えば、心事故を予防できることを明らかにし、冠動脈疾患合併大動脈瘤における冠動脈血行再建手術および経皮的冠動脈形成術の適応基準に明確な根拠をあたえた点で臨床上一価値ある論文である。

## 主論文公表誌

冠動脈疾患を合併する腹部大動脈瘤症例における冠血行再建術の適応について

東京女子医科大学雑誌 第63巻 第2号  
158-165頁(平成5年2月25日発行) 上田みどり

## 副論文公表誌

- 1) 腹部大動脈瘤に合併する冠動脈疾患の治療と予後—冠血行再建術の適応について—。脈管学 32(6):545-551(1992) 上田みどり, 石塚尚子, 雨宮邦子, 河口正雄, 孫崎信久, 住吉徹哉, 細田瑛一, 遠藤真弘, 橋本明政
- 2) 大動脈瘤に合併する冠動脈疾患の治療指針: 冠血行再建術の適応について。ICUとCCU 16(10):973-981(1992) 上田みどり, 石塚尚子, 住吉徹哉, 細田瑛一, 遠藤真弘, 橋本明政
- 3) 心筋梗塞慢性期の運動療法における平均加算心電図による心室遅延電位の検討。診療と新薬 30(3):524-529(1993) 上田みどり, 笠貫 宏,

浜本 紘, 北原公一, 鈴木 紳, 平 敦子, 高林和佳子, 新谷若菜

- 4) 短期間に左房内血栓の出現, 退縮をみた僧帽弁狭窄症の1例。呼と循 37(5):563-567(1989) 上田みどり, 柴田仁太郎, 宮崎吉弘, 三浦正悦, 宮沢佑二, 小松行雄
- 5) 慢性血液透析中の重症不安定狭心症に対し経皮的冠動脈形成術が有効であった1例。ICUとCCU 12(3):247-254(1988) 上田みどり, 川名正敏, 本田 喬, 田中直秀, 遠藤真弘, 広沢弘七郎
- 6) 身体半側萎縮症と部分てんかんを合併した pachygyria の1例。日内会誌 73(9):1334-1341(1984) 大森(上田)みどり, 大澤美貴雄, 三浦明子, 北村英子, 山根清美, 竹内 恵, 小林逸郎, 竹宮敏子, 丸山勝一, 磯部 収, 対馬敏夫